

近畿地方における中世の下駄の様相

本 村 充 保

目 次

I. はじめに	31
II. 下駄の様相	31
III. 各形式の併行関係と編年試案	37
IV. まとめ	42

論 文 要 旨

筆者は、近畿地方における古代の下駄について検討した際、古代の下駄は2系統に大別できることを指摘し、一方を、古墳時代以来の伝統を引き継ぐ「古墳系下駄様式」と呼び、もう一方を、律令期以降に盛行する「都城系下駄様式」と呼ぶことを提唱した。本稿はその続編として、近畿地方における中世の下駄の様相を検討するものである。

中世の下駄を、古代から継続するⅢ・Ⅳ形式に加え、中世以降に盛行するⅧ形式・Ⅸ形式・Ⅺ形式の5形式に分類し、それぞれの時期的変遷及び分布状況について検討した。そのうえで、古代の下駄同様、中世の下駄も2系統に大別できることを指摘した。一方は、古代以来、中世を通じて事例があり、16世紀後半以降に急増する一群で、もう一方は、16世紀前半までは断続的に資料が確認される程度であったものが16世紀後半以降に急増する一群である。このうち前者は、古代からの伝統的な一群であることから、引き続き「都城系下駄様式」と呼び、後者は、織豊系城郭に付随する城下町からの出土が顕著であることから「城下町系下駄様式」と呼ぶことを提唱した。

本村 充保（もとむら みつやす）

奈良県立橿原考古学研究所 調査第二係長

I. はじめに

筆者はかつて下駄の全国集成に基づき、その出現時期が古墳時代中期に遡ること、古代から中世の移行期に大きな画期が認められることを指摘した（本村 2006）。その後、近畿地方における古代の下駄をⅠ～Ⅶ形式の7形式に分類し、Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ形式とした古墳時代以来の特徴を有する一群（古墳系下駄様式）と、Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ・Ⅶ形式とした律令期以降に盛行する一群（都城系下駄様式）に大別できることを指摘した（本村 2015）。さらに前者は、中世には継続しないのに対し、後者は、中世以降も継続することから、従来指摘されてきた古代から中世にみられる下駄の形態的变化とは、古墳系下駄様式から都城系下駄様式への転換であることを明らかにした。

本稿では、前稿の成果を踏まえて、近畿地方における中世の下駄の様相を整理し、時系列および分布状況などから

みた下駄の様相を明らかにする。また、あわせて編年試案を提示したい。

Ⅱ. 下駄の様相

（1）下駄の分類

構造・平面形・前壺の位置・台板と歯の関係・後壺の位置などの要素に着目して分類する（本村 2006）。ここでは詳しい説明は省略し、分類案を図1で提示する。分類に基づいて、例外的な事例を除いた499点を母数として組合せを数えると24通りとなるが、実際に事例が存在する形式を抽出すると11通りとなる。ただし、1つの形式に属する事例が10例以下のものについては、今回は扱わないことにした。また、樹種については、未同定資料が多く詳細は不明であるが、可能な限り言及する。このような条件のもとで今回対象とする形式は、出土点数の多い順に、RKCEZ形式、RHCEZ形式、RKCBZ形式、LKCBZ形式、

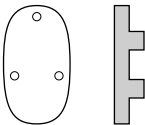
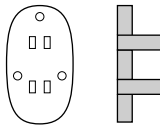
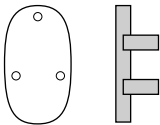
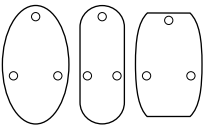
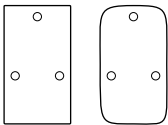
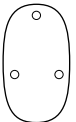
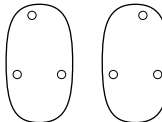
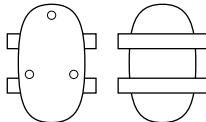
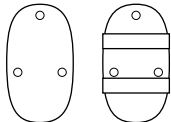
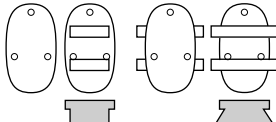
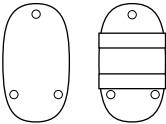
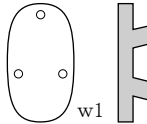
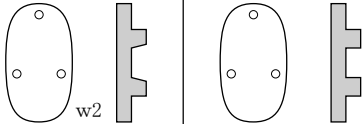
構 造			平 面 形				
R	L	I	K	H			
							
連歯	露卯	陰卯	小判形	方形			
前 壺 の 位 置		台 板 と 歯 の 関 係					
C	Y	B	E	S			
							
中央	左寄り・右寄り	板<歯	板=歯	板>歯			
後 壺 の 位 置		歯 の 側 面 観					
Z	U	w	p				
							
前方	後方	開く	内側のみ開く				
開かない							
歯 の 位 置					横 断 面 形		
h1	h2	h3	h4	h5	s	d	t
							
両歯が独立	前歯が小口と一体	後歯が小口と一体	両歯が小口と一体	歯が小口・側面と一体	方形 ($1 \geq \text{下辺} / \text{上辺} > 2/3$)	台形 ($2/3 \geq \text{下辺} / \text{上辺} > 1/3$)	三角形 ($1/3 \geq \text{下辺} / \text{上辺} > 0$)

図1 分類案一覧

RHCBZ 形式の 5 形式となる。このうち、古代から継続する RKCEZ 形式・RKCZB 形式は、それぞれⅢ形式・Ⅳ形式とし、残りは RHCEZ 形式・RHCBZ 形式・LKCBZ 形式を順に、Ⅷ形式・Ⅸ形式・Ⅺ形式と呼び変える¹⁾。以下、形式ごとにその特徴を検討する。

(2) 各形式の特徴

①Ⅲ形式 (RKCEZ 形式) (図 2)

計 243 例の事例がある。都城系下駄様式の一つとして古代から継続し、中世以降の連齒下駄の主流をなす形式の一つである。12 世紀代～16 世紀代まで継続する。

時期別にみると、12 世紀代は 27 例、13 世紀代は 26 例、14 世紀代は 8 例、15 世紀代は 6 例となっており、基本的に減少傾向を示す。これが 16 世紀代になると 138 例と一転して大幅に増加する。ただし、16 世紀代の事例を詳細にみると、16 世紀後半のものが 114 例となっており、大半が後半代の資料であることがわかる。また、後半の資料のほとんどが城跡ないし城下町などからの出土事例となるなど、17 世紀代以降の出土傾向とよく似た特徴を示しており、近世への萌芽的段階であると評価できる。重要なのは、中世において下駄が日常的な履物として普及するようになったとはいえ、右肩上がりに着実に浸透していったという訳ではないという点である。つまり、本当の意味で下駄が日常の履物として受容されるには、もう一段階ステップを踏

む必要があったといえる。そのステップが何だったのかについては後述する。

府県別の出土傾向をみると、大阪府が 142 例と圧倒的に多い。次いで滋賀県 33 例、兵庫県 23 例、京都府 21 例と続き、奈良県 15 例、和歌山県 9 例となる。なお、大阪府の出土事例は、大坂城跡・堺環濠都市遺跡出土事例を除いても 40 例を数え、他府県より事例が多いという傾向に変化はない。

これを時期別にみていくと、大阪府の事例が終始トップを独走していた訳ではないことがわかる。12 世紀代は滋賀県の 11 例が最も多く約 40% を占める。奈良県でも 8 例の出土事例がみられるが、このうち 5 例は興福寺旧境内井戸 6 の出土事例 (奈良県立橿原考古学研究所 2003) であり、奈良県全体の傾向を反映しているとはいいがたい。仮にこれを 1 件とすると、滋賀県を除く他府県の事例は 2～4 件となり、滋賀県に事例が集中するという傾向はより明確となる。Ⅲ形式は 11 世紀代も滋賀県の事例がやや多いという傾向にあることから、古代以来の傾向が継続するとみてよいだろう。13 世紀代になると、京都府・大阪府が各 9 例、滋賀県 5 例で約 90% を占め、3 府県に事例が集中するようになる。ただし詳細にみると、12 世紀代と比較して京都府・大阪府は増加傾向を示すのに対し、滋賀県はほぼ半減しており、状況はかなり異なる。これが 14 世紀代になると、8 例中 5 例が大阪府出土事例となり、集中傾向はさらに明

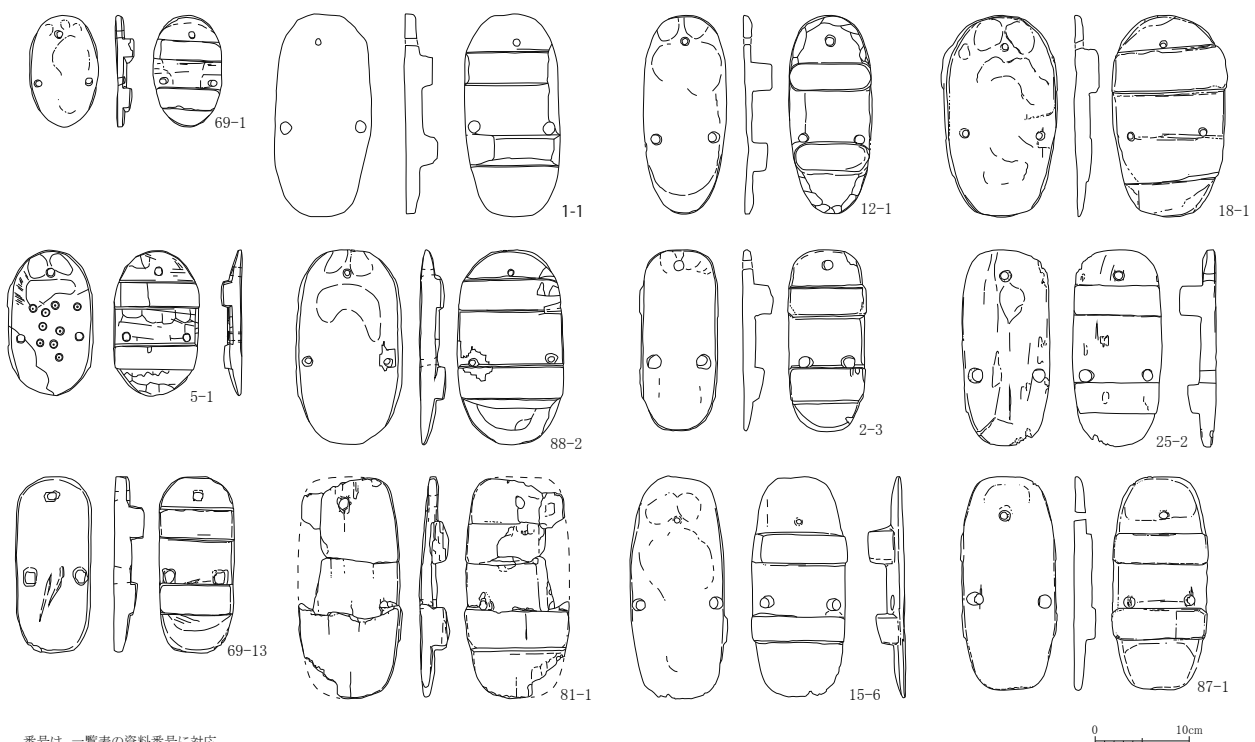


図 2 Ⅲ形式の事例

確となる。15 世紀代は最も事例の多い滋賀県・奈良県で各 2 例にすぎず、これに大阪府・兵庫県の各 1 例が続く。全体で 6 例しかいないため、明確な傾向を示すことは難しい。

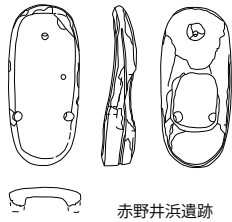


図3 h5形式の下駄

16 世紀代になると、大阪府が 105 例と最も多くなり約 80% を占め、集中傾向は顕著となる。ただし、先述のように、16 世紀後半代にあたる大坂城跡（大阪府文化財調査研究センター 2002 ほか）・堺環濠都市遺跡（堺市教育委員会 1983 ほか）の出土事例を除くと 3 遺跡 7 例に過ぎず、大阪府全体に下駄が普及した結果ではなく、下駄が出土する遺跡と出土しない遺跡の分離傾向が顕著になったとみるべきである。大阪府に次ぐ 11 例の出土事例がみられる兵庫県においても、9 例が宮内堀脇遺跡（兵庫県教育委員会 2009）から出土しており、同様の傾向がうかがえる。

次に連歯下駄の歯の位置についてみてみよう。古代においては、ほぼすべてが h1 形式であることから、検討項目から除外していたが、中世以降になると様々なバリエーションが出てくるようになるので、検討の俎上に挙げておく。古代からの傾向が続くとみられ、12 世紀代～15 世紀代は h1 形式のみとなっている。16 世紀代になると h1 形式が 106 例と主体をなすことに変わりはないが、h2 形式が 17 例、h4 形式が 9 例、h3 形式が 1 例となり、多様性がみられるようになる。興味深いのは、いわゆる「ぼっくり形」となる h5 形式が 1 例もみられないという点である。厳密に言えば、時期が特定できないため詳細な検討対象から除外した資料まで含めると、赤野井浜遺跡（滋賀県文化財保護協会 2009）で 1 例確認されている（図 13）。この下駄はⅢ形式における唯一の事例であると同時に、近畿地方における中世の下駄の中で唯一の事例でもある。将来的な資料の増加によっては、評価の修正を余儀なくされることがあるかもしれないが、近畿地方では h5 形式が出現するのは、基本的には近世以降になると考えておきたい。

樹種に関しては、未同定資料が多く十分な検討はできないが、20 種類 53 例が報告されている。ヒノキが 15 例で最も多く、このほかスギが 7 例、次いでヒノキ科・クリが各 5 例と続き、その他の樹種はいずれも 2 例以下となっている。Ⅲ形式は古代においてもヒノキが優勢となる傾向が顕著であり、同様の傾向が継続するとみられる。樹種につ

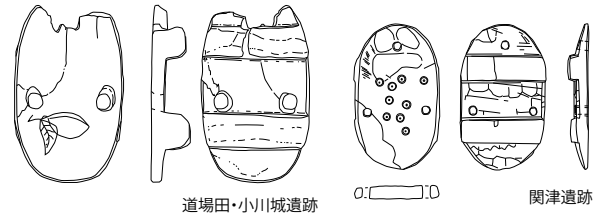


図4 線刻を施した古代の下駄

いて興味深いのは、古代に比べて使用樹種のバリエーションが大幅に増加するという点である。資料の母数自体が増加しているので、樹種のバリエーションが多くなるのは当然かもしれないが、針葉樹・広葉樹にこだわらず、使える物は何でも使う、という印象さえ受ける。

ところで、下駄には刻印や線刻が施される事例が散見される。全国的にみれば、古代にも事例が数例確認できるが、近畿地方に限定すると、古代にはそういった事例は確認されていない。滋賀県関津遺跡（滋賀県文化財保護協会 2008）の 12 世紀後半～13 世紀前半頃の包含層から出土した円形の刻印が 9 ヶ所に施された下駄が初例である。その後事例は途絶え、事例が普遍化するのには、16 世紀後半代以降となる。刻印や線刻を施すという行為は中世的というより、近世的な習慣といえるだろう。なお 16 世紀代の資料のうち 15 例は、16 世紀末の大坂城跡出土資料となっており、大坂城跡に事例が集中する傾向が顕著である。この時期はそもそも大坂城跡出土資料が圧倒的に多いことから、大坂城跡に事例が多いのはある意味当然の成り行きだとみることでもできるが、大坂城跡に比較的近く、出土資料数も大坂城跡に次ぐ堺環濠都市遺跡では線刻・刻印を施した下駄は確認されておらず、対照的な傾向を示す。その要因について特段の私見は持ち合わせていないが、興味深い傾向だと考えている。

②Ⅳ形式（RKCBZ 形式）（図 6）

計 115 例の事例がある。都城系下駄様式の一つとして古代から継続し、中世の下駄の主流となる形式である。12 世紀代～16 世紀代まで継続する。

時期別にみると、12 世紀代は 18 例、13 世紀代は 26 例と増加傾向にあるが、14 世紀代には 11 例と減少に転じる。15 世紀代は 1 例とさらに減少する。これが 16 世紀代になると 39 例と再び増加に転じる。ただし、16 世紀代の事例はほぼすべてが 16 世紀後半のもので、16 世紀前半の事例は 4 例に過ぎない。全国的には 15 世紀代～16 世紀前半の事例も散見されることから、断絶するわけではないが、

近畿地方では減少傾向が顕著であるという点は留意すべきだろう。

分布状況を見ると、大阪府が60例と最も多く、これに京都府21例、滋賀県22例が続く、全体の90%以上を3府県で占める。なお、大阪府の出土事例は、大坂城跡・堺環濠都市遺跡出土事例を除いても34例を数えることから、分布の中心が大阪府にあるとみてよいだろう。

これを時期別にみていくと、12世紀代では特に事例が集中する地域は認められず、滋賀県が7例と最も多く、次いで京都府の6例がやや目立つ程度で、これ以外は奈良県3例、兵庫県・和歌山県各1例と続く。興味深いのは大阪府に事例がみられないという点である。ただし、11世紀代には船橋遺跡で事例がみられることから、将来的に事例が確認される可能性はある。13世紀代には、大阪府13例、京都府9例、滋賀県4例となり、この3府県以外では事例が確認できなくなる。続く14世紀代になると大阪府7例、滋賀県3例、奈良県1例となり、この3府県以外では事例は確認できなくなる。事例が少なく詳細な検討は難しいが、京都府の事例が確認できなくなる点は留意すべきだろう。15世紀代は滋賀県南東浦遺跡(草津市教委2016)の1例のみであるため、現状では評価しがたい。16世紀代になると、大阪府の27例が最も多く70%を占め、集中傾向は顕著となる。大阪府以外では滋賀県5例、京都府4例、兵庫県・和歌山県各1例がみられる程度にすぎない。注目すべきは、16世紀代の事例は、いずれも城跡や城下町など都市化された地域で出土しているという点である。Ⅲ形式も同様の傾向がみられるように、中世の下駄は16世紀後半に大きな

画期があることが指摘できる。

歯の位置は、Ⅲ形式同様、古代を通じてh1形式が主体をなす。15世紀代まではh1形式のみで、16世紀代においてもh1形式が37例と主体をなすことに変わりはない。16世紀後半になるとh2形式・h3形式が各1例加わるものの、h4形式は確認できないなど、Ⅲ形式ほどの多様性は認められない。

樹種に関しては、同定された資料が9種類23例と少なく詳細は不明であるが、ヒノキが10例確認されており、Ⅲ形式同様、ヒノキが多用されるとともに、樹種が多様化する傾向が顕著となる。なお、アスナロ属が3例確認されるなど、針葉樹が多用される傾向がある。

線刻・刻印が施される下駄は、大坂城跡で5例が確認されているが、これがすべてである。時期的にはいずれも16世紀末であることから、Ⅲ形式同様、近世的傾向が強い。

③Ⅷ形式(RHCEZ形式)(図9)

計110例とⅢ形式に次ぐ事例数を数え、中世の下駄の主流となる形式である。12世紀代～16世紀代まで継続する。前節では古代を通じて3例しか事例がないため検討の俎上には挙げなかったが、8世紀末の奈良県興福寺旧境内出土事例(奈良県立橿原考古学研究所2017)を初例とし(図7)、全国的にみれば7例の事例があることから、古代から継続する形式とみられる。ただし、秋田県に4例みられることを除けば、石川県・静岡県・愛知県に1例ずつみられる程度にすぎず、基本的には中世以降に出現・盛行する形式であると評価しておきたい。実際、近世になると、全形式を通じて最も事例数が多い形式となっており、遅咲きの形式

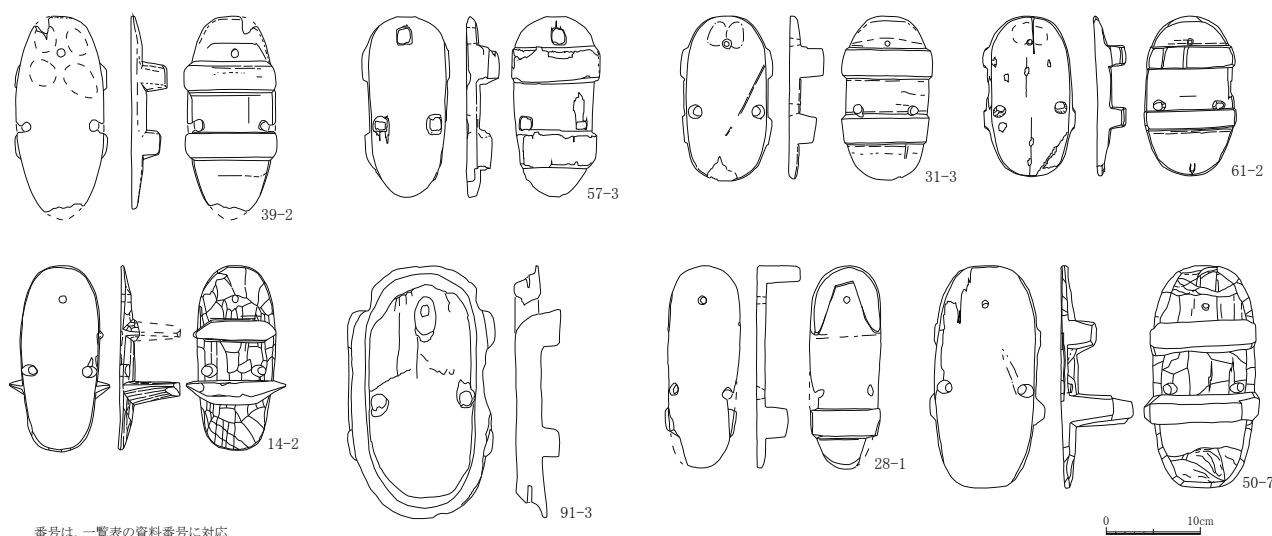
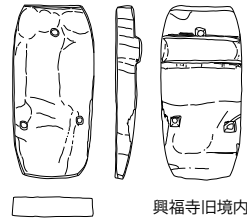


図6 IV形式の事例

ということができる。

時期別にみると、12～15世紀代はそれぞれ1～2例しか確認されておらず、少なくとも15世紀代までは例外的な存在に過ぎない。



興福寺旧境内

図7 古代におけるⅧ形式の事例

これが16世紀代になると96例と大幅に増加する。ただし、16世紀代の事例はほぼ16世紀後半に限定され、16世紀前半の事例は3例しかない。この状況から、事例数でみるとⅢ形式に次ぐとはいえ、16世紀後半に急増したことによるものであり、中世を通じて事例が確認できるⅢ・Ⅳ形式と比べて、近世的傾向がより顕著な形式であるといえる。

分布状況を見ると、大阪府が77例と最も多く、これに滋賀県・京都府・兵庫県が各8例、以下、和歌山県5例、奈良県4例と続き、全体の約70%を大阪府が占める。ただし、大阪府の事例は、16世紀後半代の大坂城跡・堺環濠都市遺跡出土事例を除くと3例に過ぎず、特段の集中傾向はみられない。

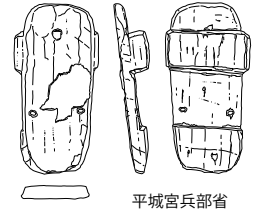
歯の位置は、Ⅲ・Ⅳ形式同様、古代を通じてh1形式が主体をなす。15世紀代まではh1形式のみで、16世紀代においてもh1形式が38例と引き続き最も事例数の多い形式であるが、16世紀後半代にはh4形式が31例、h2形式が16例、h3形式が8例となり、h4形式を中心として多様性が花開くようになる。h2形式・h4形式はいわゆる割り下駄に分類される下駄であり、近世的傾向が強いとされている。古代以来のⅢ形式・Ⅳ形式に先駆けてⅧ形式においてh2形式・h4形式が顕著にみられることを積極的に評価すれば、Ⅷ形式は近世的傾向がより顕著な形式であるという評価を支持するといえるかもしれない。

樹種に関しては、同定された資料が14種類33例と少なくとも詳細は不明であるが、ヒノキが5例であるのに対し、スギが7例となっており、スギが下駄の用材としての需要が高まった可能性がある。

線刻・刻印が施される下駄は、16例の事例が確認でき、すべてが16世紀後半代となる。大坂城跡出土資料が12例と最も多いが、堺環濠都市遺跡で2例、宮内堀脇遺跡で1例の事例が確認されており、Ⅲ・Ⅳ形式の傾向とは若干異なる傾向を示す。

④Ⅸ形式（RHCBZ形式）（図10）

計18例の事例があるものの、前述した3形式と比較すると事例数が少なく、今後の資料の増加が期待される。なおⅨ形



平城宮兵部省

式も、8世紀初頭の奈良県平城宮兵部省出土事例（奈良文化財研究所2005）を初例とし（図8）、全国的に3例の事例があることから、古代から継続する可能性がある。11世紀の資料を欠くものの、8世紀代以降継続的に事例が確認されていることから、主流になることはないまでも、息の長い下駄の形態であるといえることができる。

時期別にみると、15世紀後半～16世紀初頭の宮内堀脇遺跡の事例が中世における初例であることから、他形式よりかなり後出する。16世紀代になると8例と増加傾向を示すが、16世紀前半の事例も1例しかない。この状況から、Ⅷ形式同様、中世的というより、近世的傾向がより顕著な形式であると評価しておきたい。

分布状況を見ると、京都府・大阪府・兵庫県が各3例で最も多く、続く滋賀県が2例、和歌山県が1例確認されており、特定地域に集中する傾向はうかがえない。なお、奈良県では事例が確認されていない。

歯の位置は、他形式同様、古代を通じてh1が主体をなす。15世紀代まではh1形式のみで、16世紀代においてもh3・h4形式が各1例確認されるのみである。これをみる限り、あまり多様性はないようにみえるが、事例数自体がかなり少ないため、正確な評価は難しい。

樹種に関しては、同定された資料が4種類5例と少なくとも詳細は不明であるが、ヒノキが2例確認されている。なお、Ⅷ形式ではスギが最も多かったが、Ⅸ形式では1例も確認されていないなど、他形式とはやや異なる特徴を示す。

⑤Ⅺ形式（LKCBZ形式）（図11）

計29例の事例があり、古代を通じて唯一の露卯下駄である。事例数は必ずしも多くはないが、一定の割合を占める形式である。14世紀代の事例を欠くものの、13世紀代～16世紀代まで継続する。

時期別にみると、13世紀後半の京都府難波野遺跡出土事例（京都府埋蔵文化財調査研究センター2008）を初例とし（図12）、13世紀末～14世紀初頭の大坂府矢作遺跡出土事例（八尾市文化財調査研究会1989）など2例がある。

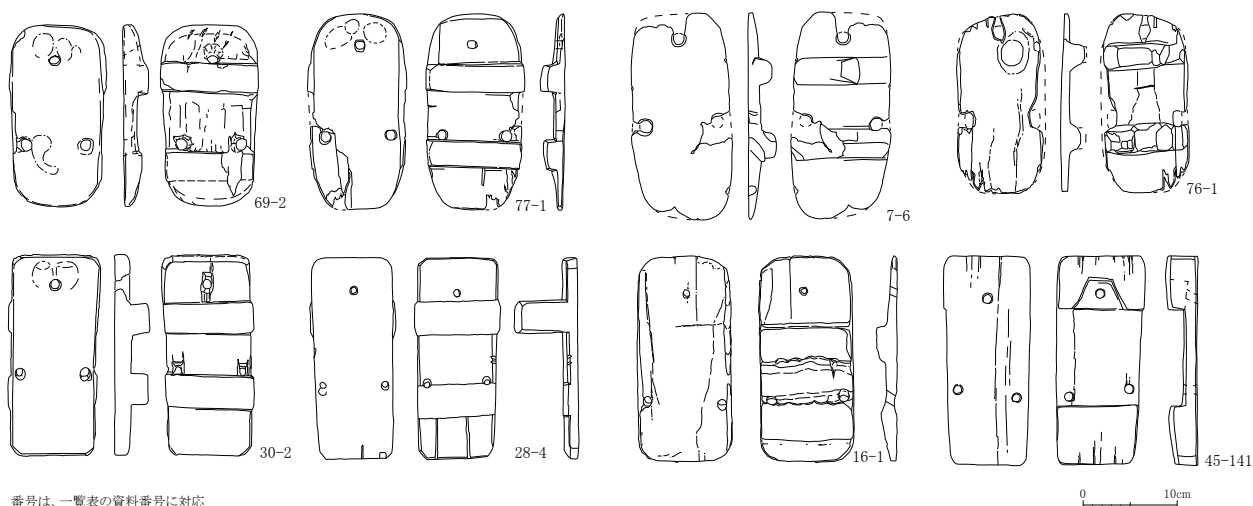


図9 VIII形式の事例

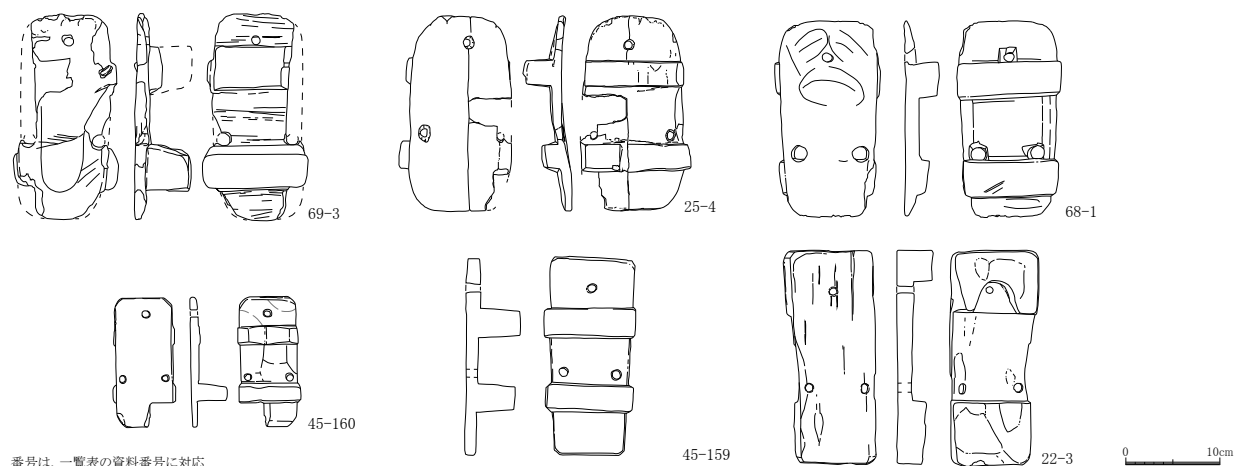


図10 IX形式の事例

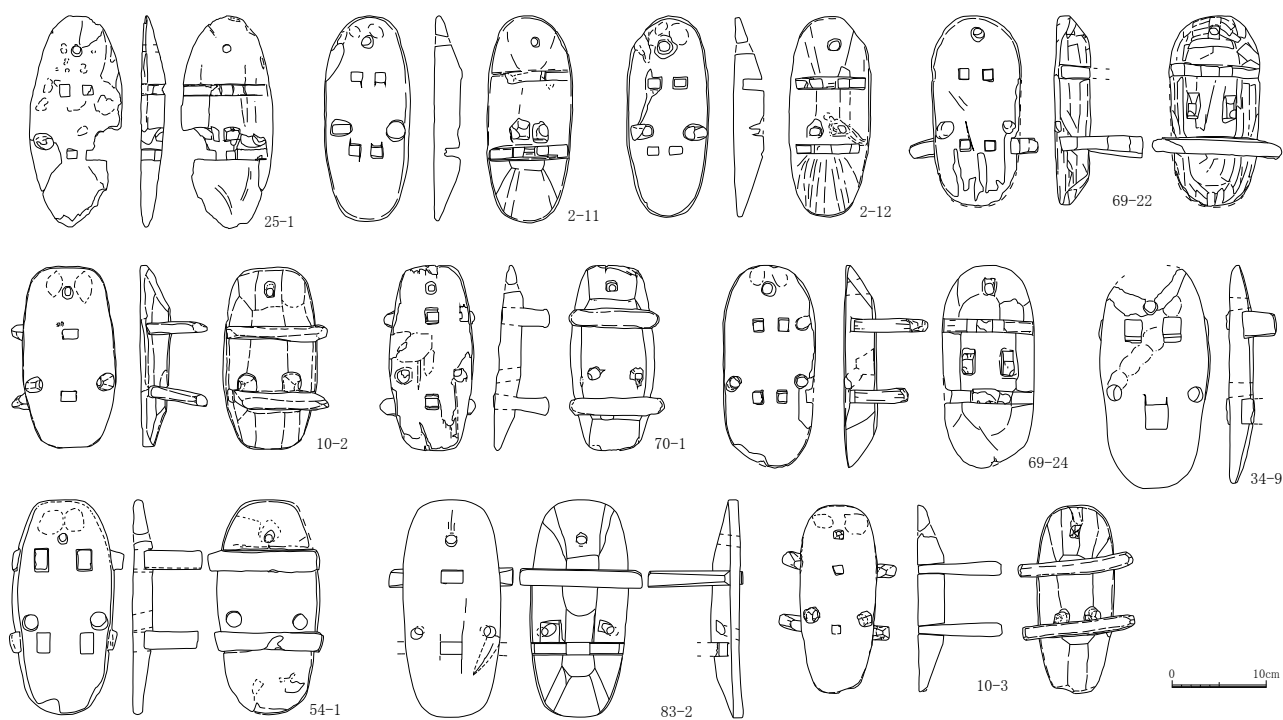


図11 XI形式の事例

全国的にみれば、11世紀後半の福岡県太宰府跡出土事例（九州歴史資料館1990）を初例とし、12世紀代には柳之御所跡（岩手県教育委員会2000）をはじめとして11例が確認されていることから、将来的に資料が確認される可能性が高いと考えられる。蛇

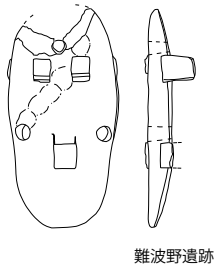


図12 13世紀代のXI形式

足ながら紹介しておく、兵庫県砂入遺跡（兵庫県教育委員会1997）では、奈良時代～平安時代前期と時期幅があるため、世紀別の検討資料からは除外したが、XI形式の下駄が1点出土しており（図

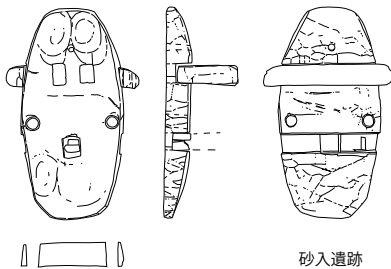


図13 古代のXI形式の下駄

13)、同じく兵庫県の袴狭遺跡（兵庫県教育委員会2000）でも奈良時代～平安時代の下駄が1点確認されている。時期が特定できる資料が増加すれば、将来的には9世紀代まで出現時期が遡ることも十分にあり得ると考えている。15世紀代は3例しかないが、16世紀代になると19例が知られるようになる。16世紀代の事例は16世紀後半以降のものが多く、16世紀前半代の事例は6例しかない。この状況から、Ⅷ・Ⅸ形式同様、中世的というより、近世的傾向がより顕著な形式であると評価できる。

分布状況を見ると、滋賀県が10例で最も多いが、次いで兵庫県8例、大阪府5例、京都府4例、奈良県2例であることから、特に事例が集中する地域は見いだせない。なお、和歌山県では事例が確認されていない。

XI形式は露卯下駄なので、台板の横断面形についてみていく。13世紀代はs形式のみが3例、15世紀代はd形式のみが3例、16世紀代はs形式が3例、d形式が13例、t形式が2例となる。全体的に資料数が少なく評価は難しいが、徐々に台裏側の幅が狭くなっていくことがわかる。厳密ではないものの、三者の関係は「方形→台形→三角形」という時間的な流れをある程度反映していると考えられる。

樹種に関しては、同定された資料が8種類12例と少なく詳細は不明であるが、モクレン属が4例である以外は、いずれも1例ずつしか事例がなく、モクレン属が多用され

る傾向がうかがえる。歯の樹種でもモクレン属が最も事例が多いという点をみても、選択的に用いられたとみてよいだろう。さらに、樹種の大半が広葉樹であるという傾向を示す。これは、連歯下駄であるⅢ・Ⅳ・Ⅷ・Ⅸ形式の樹種が針葉樹を主体とするという傾向とは異なるものであり、連歯系の下駄と差歯系の下駄で樹種を意図的に選別している可能性が指摘できる。

Ⅲ. 各形式の併行関係と編年試案

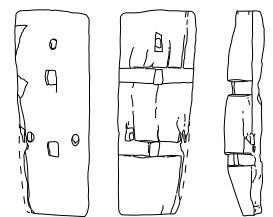
前章では、下駄をⅢ・Ⅳ・Ⅷ・Ⅸ・XI形式に分類し、形式ごとにその特徴を明らかにしてきた。本章では、時期ごとに各形式の分布状況および消長関係を整理したい。なお、図23に編年試案を提示したので、合わせて参照されたい。

(1) 12世紀代（図16）

古代以来のⅢ・Ⅳ形式が継続し、新たにⅧ形式が加わる。ただし、先述のように、Ⅷ形式の初例は8世紀代に遡ることから、この時期に出現するわけではない。計47例の事例がある。Ⅲ・Ⅳ形式はもちろん、中世以降に盛行するⅧ・Ⅸ形式を含め、すべて連歯下駄ある。ただし、奈良県興福寺旧境内（奈良県立橿原考古学研究所2003）から12世紀中葉～後葉の露卯下駄が3点出土しており、露卯下駄が存在しないというわけではない。この露卯下駄のうちの一つは、近世になると資料が増加することから、別稿でXII形式として検討することになっている（図14）。その特徴は別稿に譲るとして、ここではXI形式の平面形が方形になるという点のみ記しておく²⁾。ここでは全国的にみてもそうであるように、近畿地方においても、12世紀代には確実に露卯下駄が存在しているという事実を確認しておきたい。

分布は、滋賀県が19例で最も多く、次いで奈良県12例、京都府9例となっており、この3府県に集中する。時代が降るにつれて大阪府の事例が増加することを考慮すれば、古代的な傾向を色濃く残す段階とみられる。

遺跡別にみると、滋賀県塩津港遺跡6例（滋賀県文化財保護協会2019）を筆頭に、鳥羽離宮跡（京都市埋蔵文化財研究所1986）・興福寺旧境内各5例、関津遺跡（滋賀県文化財保護協会2008）・街道遺跡（野洲町教育委員会1994）各4例な



興福寺旧境内

どで集中する事例がみられ、特

図14 12世紀代のXII形式

定の遺跡にある程度事例が集中する傾向がみられる。なお、興福寺は、中世においては荘園領主としての性格が強いとはいえ、寺院であることに変わりはなく、塩津港遺跡も神社であるとされていることから、宗教的性格の強い遺跡からの出土が目立つといえる。遺跡の種類においても、古代の名残がみられる。

(2) 13 世紀代 (図 17)

12 世紀代にみられた各形式に加え、XI 形式が出現する。現時点ではIX形式は確認できない。計 55 例の事例がある。この時期の特徴としては、露卯下駄である XI 形式が出現するという点が挙げられる。ただし、先述のように、初例である難波野遺跡の下駄でも 13 世紀後半以降であること、続く 14 世紀代では事例が確認できないことから、普及・浸透するのは 16 世紀代以降になるとみるべきだろう。

分布は大阪府が 23 例で最も多く、京都府 19 例、滋賀県 9 例が続く、この 3 府県に事例が集中する。滋賀県・京都府は 12 世紀代以来の傾向が継続するとみることができ、奈良県の事例がほぼなくなり、代わって大阪府の事例が急増する。以後、大阪府の事例が多くなるという傾向がみられ、13 世紀代がその転換期に当たると考えられる。

1 遺跡あたりの出土数は、難波野遺跡の 9 例が最も多く、次いで大阪府水走遺跡(東大阪市文化財協会 2000)の 7 例、滋賀県上仰木遺跡(大津市教育委員会 2013)の 4 例となる。特定の遺跡に事例が集中するという傾向は顕著ではないものの、難波野遺跡は付近に所在する竈神社と密接な関係があったことが想定されており、上仰木遺跡も古代には延暦寺の造営を支える生産工房として機能したとされるなど、12 世紀代の塩津港遺跡や興福寺旧境内と類似する傾向を示しており、古代以来の傾向を未だ残す時期といえるかもしれない。

(3) 14 世紀代 (図 18)

この時期に存在する形式として、Ⅲ・Ⅳ・Ⅷ形式が確認できる。13 世紀代には確認された XI 形式がみられなくなるが、この時期は資料数が 20 例しかなく、この点をどのように評価すべきなのかは判断が難しい。ただし、全国的にみれば、XI 形式は 12 世紀代が 11 例、13 世紀代が 32 例、14 世紀代が 56 例と、まさに右肩上がりが増加することから、着実に普及していったと考えることができる。近畿地方で事例が確認できなくなる要因として、XI 形式は地域的偏在性が強い形式であるという点を考慮する必要があると

考えている。それを示すように、最も事例が集中する北陸地方では 36 例が確認されており、かつ新潟県寺前遺跡の 14 例(新潟県埋蔵文化財調査事業団 2008)を筆頭に 5 遺跡に集約される。このことから、単に事例のあるなしを評価するのではなく、事例が確認される地域・遺跡にはどのような共通点がみられるのか、という視点で検討する必要があることを示す好例と言えるだろう。

分布は、大阪府 12 例が最も多く、滋賀県 6 例となっており、この 2 府県以外では、奈良県で 2 例確認されているのみとなる。

遺跡の種類としては、大半が集落遺跡となる。1 遺跡あたりの出土数は、大阪府玉櫛遺跡の 5 例(大阪府文化財調査研究センター 1998 ほか)が最も多い程度で、特定の地域・遺跡に事例が集中する傾向は認められない。

(4) 15 世紀代 (図 19)

この時期に初めて、Ⅲ・Ⅳ・Ⅷ・Ⅸ・XI 形式の全形式が出揃う。計 13 例の事例がある。

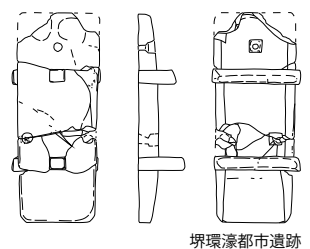
分布は各府県 5 例以下で特に集中する地域は認められない。将来的に資料が増加する可能性もあるが、大阪府の事例が 1 例しかみられなくなるという点には留意しておくべきだろう。

1 遺跡あたりの出土数は宮内堀脇遺跡の 4 例が最も多い程度であり、事例が集中する傾向は認められない。

(5) 16 世紀代 (図 20・21)

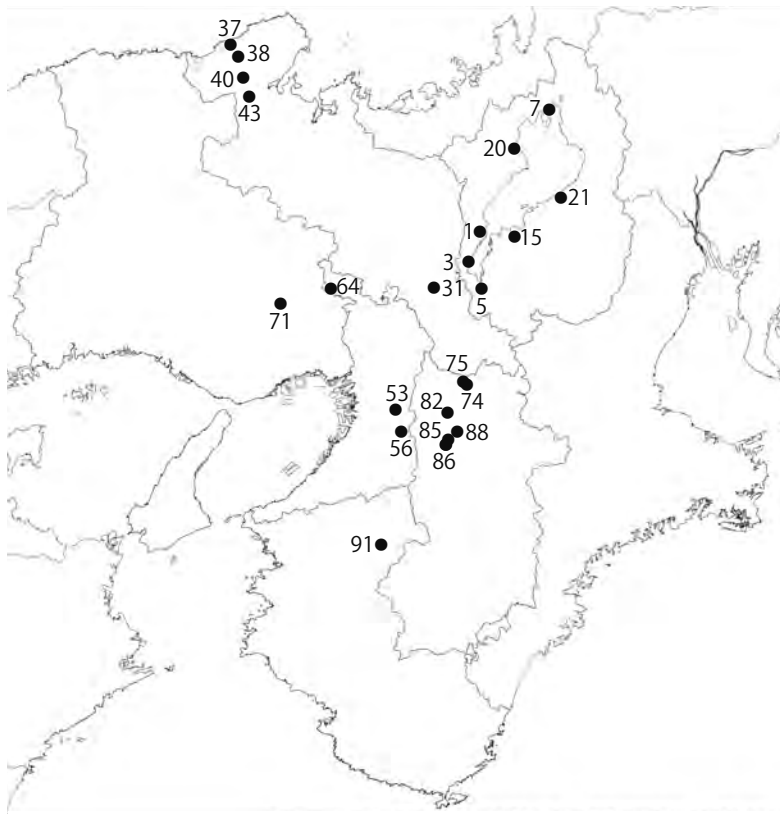
15 世紀代に引き続き、全形式が確認できる。計 300 例の事例がある。なお、事例数が少ないため、中世段階では検討資料としては扱わなかったが、近世段階では XII 形式に分類する予定の露卯下駄もみられるなど(図 15)、資料数の大幅な増加と合わせて、近世への胎動が明らかに認められる段階であると評価できる。ただし、連歯下駄を主体とすること、平面形が小判形を主体とすることなど、中世以前の伝統的な特徴を色濃く残しており、あくまでも中世に含めて考えるべき時期であり、近世への過渡的段階と評価すべきだと考えている。

16 世紀代の資料を詳細に検討すると、前半と後半でかなり傾向が異なることが指摘できる。前半に属するものは 28 例を数える。1 遺跡あたりの出土数は、滋



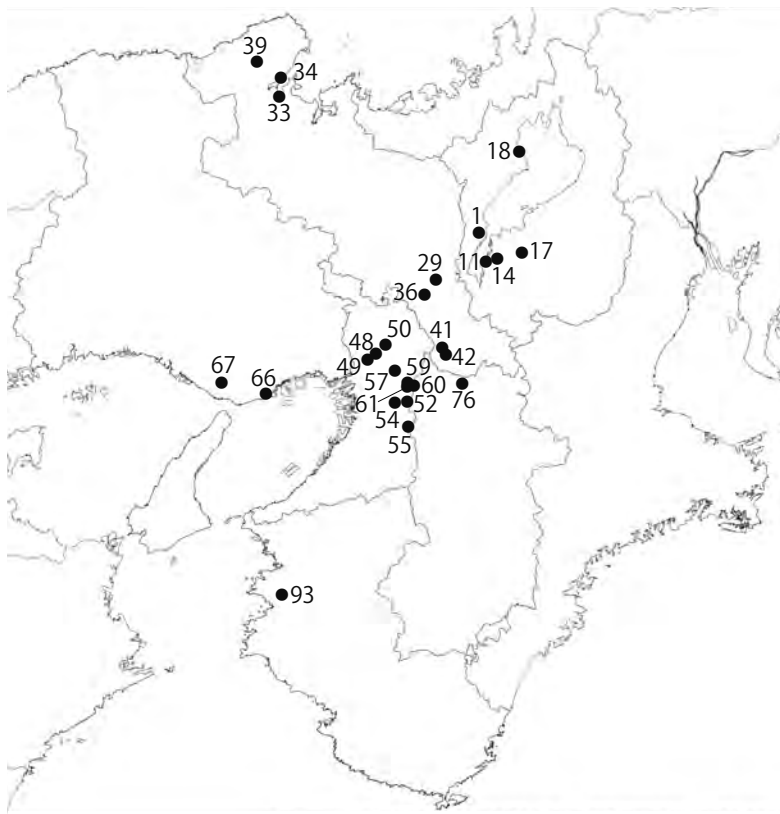
堺環濠都市遺跡

図15 16世紀代のXII形式



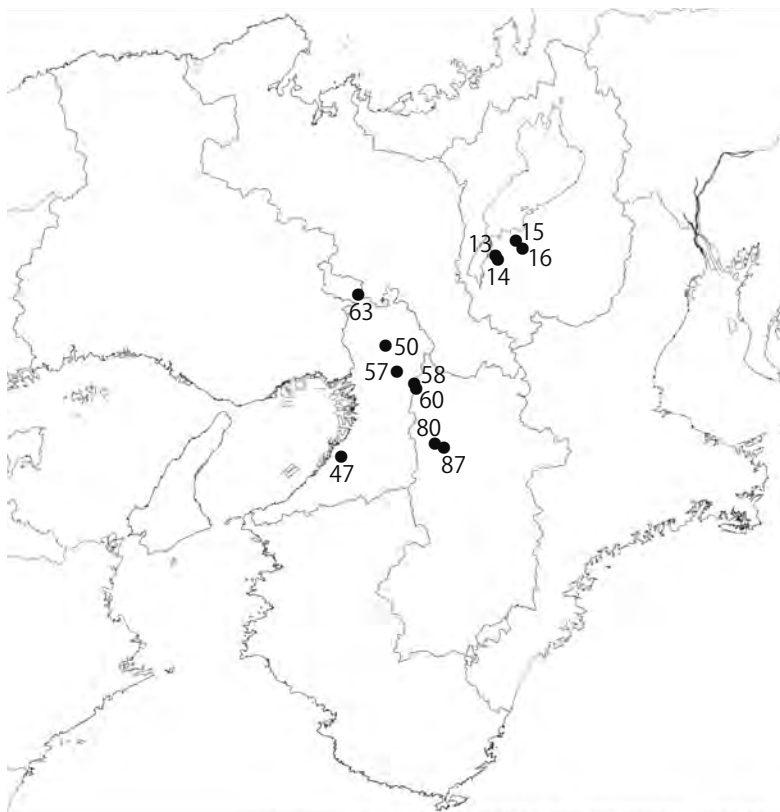
- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 上仰木遺跡 | : III |
| 3. 上高砂遺跡 | : III |
| 5. 関津遺跡 | : III IV |
| 7. 塩津港遺跡 | : III IV VIII |
| 15. 街道遺跡 | : III IV |
| 20. 正伝寺南遺跡 | : III |
| 21. 今安楽寺遺跡 | : IV |
| 31. 鳥羽離宮跡 | : III IV |
| 37. 浅後谷南遺跡 | : III IV |
| 38. 古殿遺跡 | : IV |
| 40. 正垣遺跡 | : IV |
| 43. 下畑遺跡 | : III |
| 53. 中田遺跡 | : III |
| 56. 駒ヶ谷遺跡 | : III |
| 64. 上椿遺跡 | : III |
| 71. 川除・藤ノ木遺跡 | : IV |
| 74. 元興寺旧境内 | : IV |
| 75. 興福寺旧境内 | : III |
| 82. 中町西遺跡 | : III IV |
| 85. 曲川遺跡 | : VIII |
| 86. 四条遺跡 | : IV |
| 88. 下永東方遺跡 | : III |
| 91. 金剛峯寺遺跡 | : III IV |

図 15 12 世紀代の分布状況



- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 上仰木遺跡 | : III IV |
| 11. 宮前遺跡 | : IV |
| 14. 横江遺跡 | : III |
| 17. 三上遺跡 | : IV |
| 18. 針江南遺跡 | : III |
| 29. 平安・左・8・3 | : IV |
| 33. 桑原口遺跡 | : IV |
| 34. 難波野遺跡 | : III IV XI |
| 36. 長岡・右・2・3 | : IV |
| 39. 沖田遺跡 | : III IV |
| 41. 宮ノ口遺跡 | : III |
| 42. 棕ノ木遺跡 | : III |
| 48. 吹田操車場遺跡 | : III |
| 49. 蔵人遺跡 | : IV |
| 50. 玉櫛遺跡 | : IV |
| 52. 池島・福万寺遺跡 | : III IV |
| 54. 矢作遺跡 | : XI |
| 55. 玉手山遺跡 | : IV |
| 57. 巢本遺跡 | : III IV |
| 59. 水走遺跡 | : III IV |
| 60. 西ノ辻遺跡 | : IV |
| 61. 鬼虎川遺跡 | : III IV |
| 66. 松野遺跡 | : III |
| 67. 吉田南遺跡 | : III |
| 76. 東大寺旧境内 | : VIII |
| 93. 藤並地区遺跡 | : III |

図 16 13 世紀代の分布状況



- 13. 欲賀南遺跡 : IV
- 14. 横江遺跡 : IV
- 15. 街道遺跡 : III IV
- 16. 久野部遺跡 : VIII
- 47. 今木廃寺 : III
- 50. 玉柳遺跡 : III IV
- 57. 巢本遺跡 : IV
- 58. 植附遺跡 : III
- 60. 西ノ辻遺跡 : III IV
- 63. 野間遺跡 : IV
- 80. 大中遺跡 : IV
- 87. 小泉堂遺跡 : III

図 17 14 世紀代の分布状況



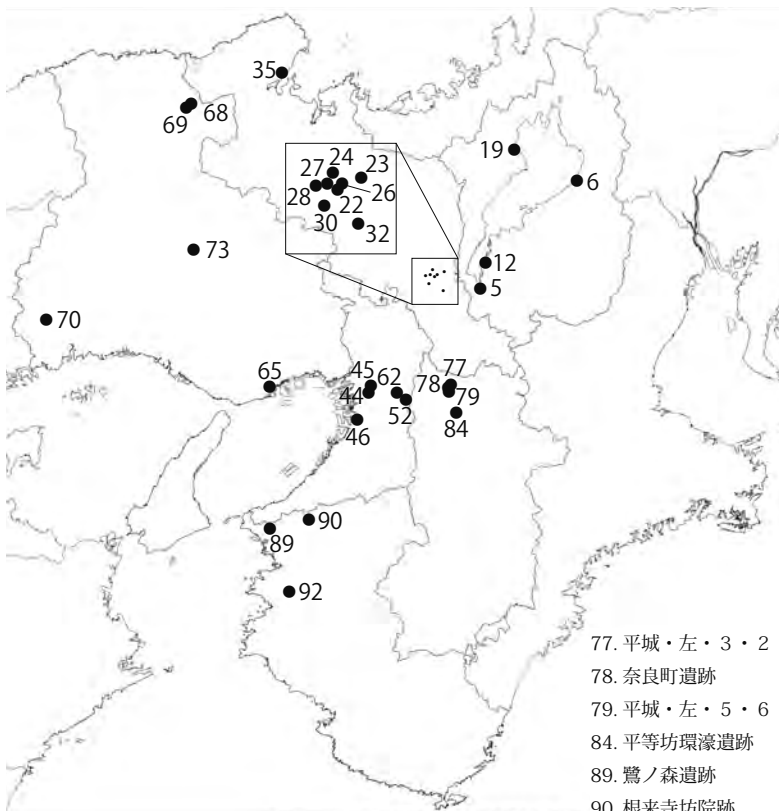
- 4. 南東浦遺跡 : III IV
- 9. 里井 B 遺跡 : III VIII
- 25. 三條西殿跡 : XI
- 51. 池島遺跡 : III
- 69. 宮内堀脇遺跡 : III VIII IX XI
- 81. 古屋敷遺跡 : III
- 83. 布留遺跡 : III XI

図 18 15 世紀代の分布状況



- | | |
|-------------|------------------|
| 2. 坂本遺跡 | : III IV VIII XI |
| 8. 神照寺坊遺跡 | : XI |
| 10. 観音寺城遺跡 | : IV XI |
| 25. 三条西殿跡 | : III VIII IX |
| 46. 堺環濠都市遺跡 | : III |
| 61. 鬼虎川遺跡 | : III |
| 62. 若江遺跡 | : III |
| 69. 宮内堀脇遺跡 | : IV VIII |
| 72. 初田館跡 | : III |

図 19 16 世紀前半の分布状況



- | | |
|----------------|---------------------|
| 5. 関津遺跡 | : IV |
| 6. 佐和山城跡 | : III IV VIII XI |
| 12. 草津宿場町 | : III |
| 19. 吉武城 | : IX |
| 22. 高速鉄道烏丸線内遺跡 | : III IX |
| 23. 白河街区跡 | : VIII |
| 24. 旧二条城跡 | : III |
| 26. 本能寺跡 | : XI |
| 27. 平安・左・3・2 | : III IV |
| 28. 平安・左・3・3 | : IV VIII |
| 30. 大藪城跡 | : VIII |
| 32. 伏見城跡 | : VIII |
| 35. 日置遺跡 | : VIII |
| 44. 四天王寺旧境内 | : III VIII |
| 45. 大坂城跡 | : III IV VIII IX XI |
| 46. 堺環濠都市遺跡 | : III IV VIII IX XI |
| 52. 池島・福万寺遺跡 | : XI |
| 62. 若江遺跡 | : III |
| 65. 兵庫津遺跡 | : III |
| 68. 袴狭遺跡 | : IX |
| 69. 宮内堀脇遺跡 | : III IV VIII XI |
| 70. 山野里宿遺跡 | : XI |
| 73. 安坂・門田遺跡 | : VIII |
| 77. 平城・左・3・2 | : VIII |
| 78. 奈良町遺跡 | : III |
| 79. 平城・左・5・6 | : VIII・XI |
| 84. 平等坊環濠遺跡 | : III |
| 89. 鷺ノ森遺跡 | : III IV VIII |
| 90. 根来寺坊院跡 | : III |
| 92. 湯川氏館跡 | : VIII |

図 20 16 世紀後半の分布状況

賀県坂本遺跡の12例（大津市教育委員会 2018）を除くといずれも4例以下であり、事例が集中する傾向は顕著ではない。これに対し、16世紀後半に帰属するものは243例を数える。遺跡の種類でみても、大坂城跡や堺環濠都市遺跡のような都市的な場への集中度が極度に高まる。特に大坂城跡の出土事例は160例を数え、全体の60%を超える。さらに、歯の位置にh1形式以外のものが一定量確認できるほか、刻印や線刻を施すものがあるなど、近世的様相が随所にみられるようになる。

IV. まとめ

本稿では、近畿地方における中世の下駄の様相について検討した。検討に際しては、構造および形態的特徴をもとに形式分類し、そのうち事例数が10例以上を数えるⅢ・Ⅳ・Ⅶ・Ⅸ・Ⅺ形式を対象とした。この5形式の諸特徴をもとに、消長関係・分布地域・遺跡の性格などについて、形式ごとに明確な傾向がうかがえることを明らかにし、合わせて消長図（図22）と編年試案（図23）も提示した。

その内容を簡潔にまとめると、中世の下駄は、Ⅸ形式が

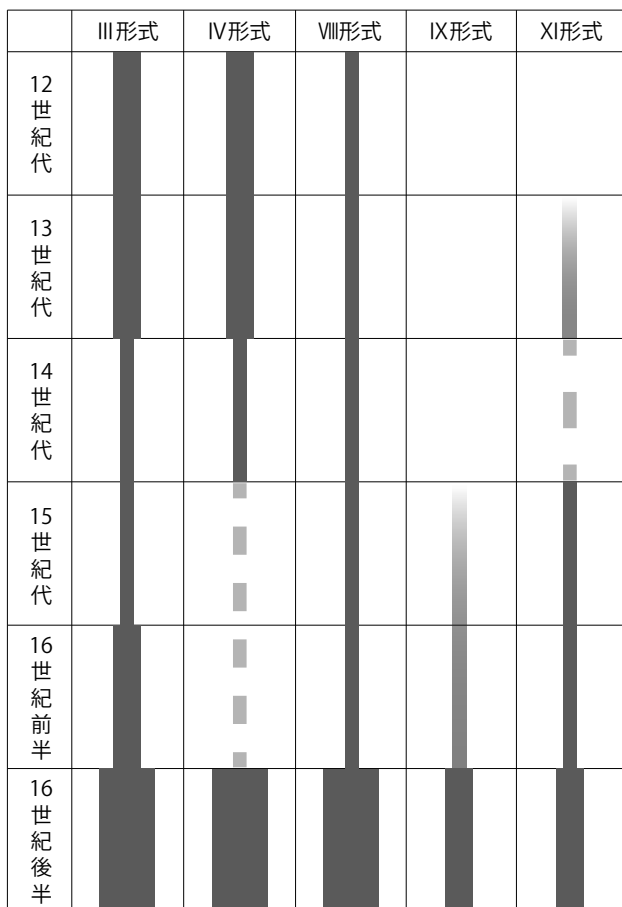


図22 各形式消長図

15世紀代、Ⅺ形式が13世紀代を初現とするなど、やや後出する形式もみられるものの、Ⅲ形式・Ⅳ形式・Ⅶ形式は、全期間を通じて事例が確認できる。Ⅸ形式・Ⅺ形式も全国的にみれば、全期間を通じて事例が確認できることから、将来的に事例が増加すれば、空白期間を埋めることができるようになる可能性が高い。

さらに詳細にみると、二つのグループに大別できることが指摘できる。一つは、古代以来の形式であるⅢ・Ⅳ形式で、12世紀代以降も継続的に事例が確認でき、かつ16世紀後半に事例が急増するグループである。もう一つは、中世以降に事例が顕在化するⅦ・Ⅸ・Ⅺ形式で、12世紀代以降も事例自体は確認できるものの、16世紀前半までは2～3例が散見される程度に過ぎなかったものが、16世紀後半になって事例が急増するグループである。前者の下駄については、古代からの伝統的様式であることから、引き続き「都城系下駄様式」と呼ぶ。一方、後者の下駄については、いわゆる織豊系城郭に付随する城下町からの出土事例が顕著であることから、「城下町系下駄様式」と呼ぶことにする。このように、下駄が二つのグループに大別できるという状況は、古代の下駄とよく似た傾向を示すといえる。ただし、古代においては「古墳系下駄様式」から「都城系下駄様式」への転換は、時系列的な流れで説明できたのに対し、中世における「都城系下駄様式」と「城下町系下駄様式」の関係は、16世紀後半以降、近世に至るまで常に併存することから、時系列的なものではなく、下駄の多様性を象徴する相互補完的な関係にあったとみておきたい。

ただし、地域的な分布状況や遺跡の傾向をみるとやや異なる見方もできる。12世紀代は滋賀県・京都府の出土事例が多く、また寺院や神社といった宗教的傾向の強い遺跡からの出土事例が目立つなど、古代以来の傾向が継続する段階といえる。13世紀代までは少なからずその影響が垣間見える。その後大阪府の事例が徐々に増加し、16世紀後半に至ると圧倒的に大阪府の事例で占められるようになる。その要因は明白で、16世紀後半の事例のほとんどが大坂城跡ないしは堺環濠都市遺跡出土事例となっており、都市的な場で使用されるようになったことを意味する。全国的にみても、近世以降の下駄のほとんどが、いわゆる江戸遺跡に代表される城下町などの都市遺跡から出土する点とも矛盾しない。つまり、16世紀後半、言い換えれば、織豊系城郭の成立によって城下町が急速に整備された時期に、下駄は日

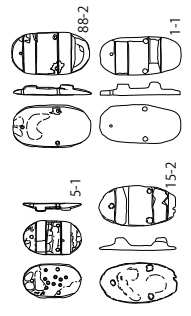
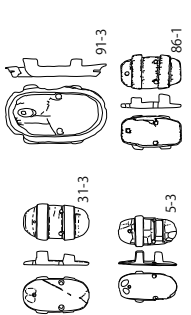
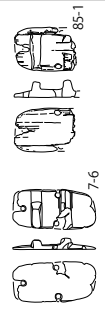
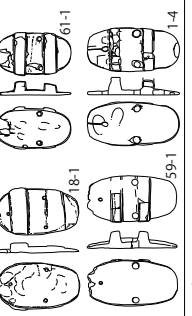
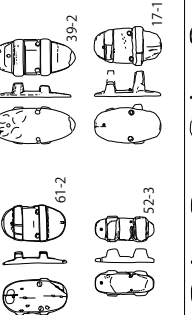
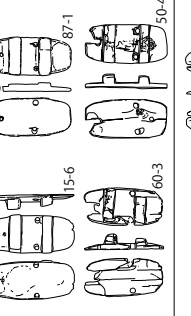
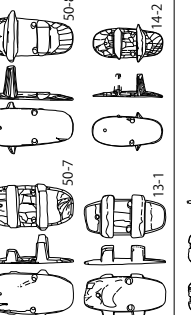
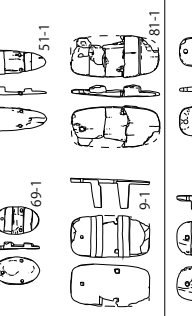
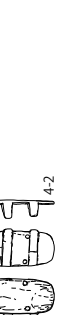
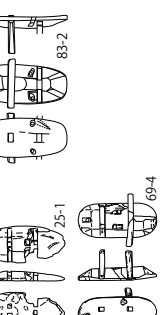
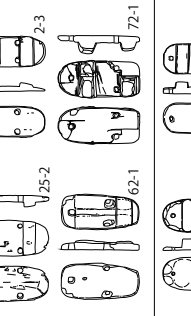
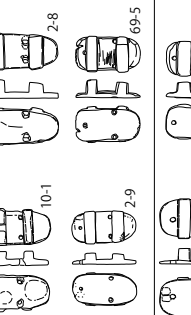
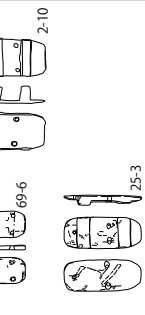
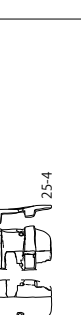
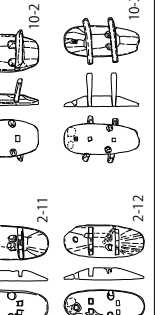
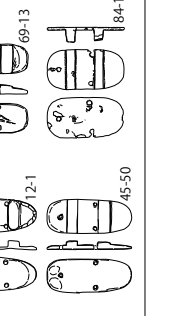
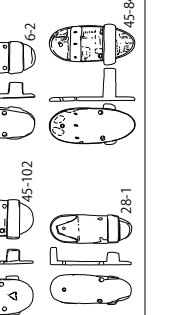
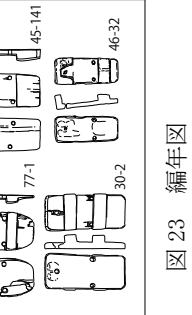
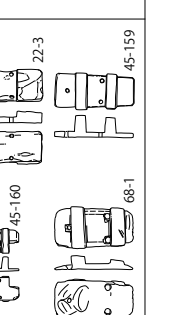
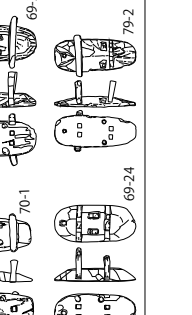
	III形式	IV形式	VII形式	IX形式	X形式
12世紀代					
13世紀代					
14世紀代					
15世紀代					
16世紀代前半					
16世紀代後半					

図 23 編年図

常的な履物としての地位を確立したといえる。ただし、16世紀後半の下駄は、露卯系の下駄が種類・事例数ともに限定的であること、平面形も小判形が主体であることなど、近世以降の特徴とは異なる点があることには留意すべきである。その意味において、16世紀後半とは、中世と近世の下駄をつなぐ過渡的段階であると評価できる。

最後に興味深い点を挙げておこう。古代の下駄の消長関係と中世の下駄の消長関係は非常によく似ている。古代の下駄は、5世紀代に出現し、6世紀～9世紀にかけて盛行し、10世紀代には一旦衰微するものの、11世紀代には再び増加に転じる。中世の下駄も12世紀代から13世紀代にかけて盛行し、14・15世紀にかけて一旦衰微するものの、16世紀代には再び増加に転じるという非常によく似た消長関係をたどる。このことから、下駄は一度ならず二度までも本来廃れゆく運命にあったといえる。古代の下駄は祭祀性を喪失する一方で、日常的な履物として質的に転換したことにより、再び脚光を浴びるようになったと考えている。では、中世の下駄はどのような転換がおきたのだろうか。それは下駄そのものの転換ではなく、都市部における居住スタイルの変化があったと考えている。つまり、室町期にいわゆる書院造りの建物が流行するのに伴い、屋内には畳を敷くことが定着していった。畳を敷かないまでも、板張りの床が一般的になることで、屋外と屋内が明確に分けられ、屋外の汚れを屋内に持ち込まないという意識が定着していったと考えられる。つまり、古代において下駄は、宗教的観点からみた「穢れ」から足を守ることに意義があった。それがやがて祭祀性を喪失するに伴い、下駄が守るべき対象は「穢れ」から「汚れ」になったといえるのではないだろうか。これこそが中世という過渡期的段階を経て、近世において爆発的に下駄が普及する原動力となったと考えられる。

参考文献

岩手県教育委員会 2000『柳之御所跡』
大阪府文化財調査研究センター 1998『玉櫛遺跡』ほか
大阪府文化財調査研究センター 2002『大坂城址Ⅱ』ほか
大津市教育委員会 2013『上仰木遺跡発掘調査報告書』
大津市教育委員会 2018『坂本遺跡発掘調査報告書』
九州歴史資料館 1990『太宰府史跡H.元年度概報』
京都市埋蔵文化財研究所 1986『鳥羽離宮跡発掘調査概報S60

年度』

京都府埋蔵文化財調査研究センター 2008『京都府遺跡調査報告集』第128冊
草津市教育委員会 2016『南東浦遺跡第1次発掘調査報告書』
堺市教育委員会 1983『堺市文化財調査報告第15集』ほか
滋賀県文化財保護協会 2008『関津遺跡』
滋賀県文化財保護協会 2009『赤野井浜遺跡』
滋賀県文化財保護協会 2019『塩津港遺跡』
奈良県立橿原考古学研究所 2003『興福寺旧境内』
奈良県立橿原考古学研究所 2017『名勝奈良公園・興福寺跡』
奈良文化財研究所 2005『平城宮発掘調査報告XVI』
新潟県埋蔵文化財調査事業団 2008『寺前遺跡』
東大阪市文化財協会 2000『水走遺跡第4次発掘調査報告』
兵庫県教育委員会 1997『砂入遺跡』
兵庫県教育委員会 2000『袴狭遺跡』
兵庫県教育委員会 2009『宮内堀脇遺跡Ⅰ』
本村充保 2006「遺跡出土下駄の編年及び地域性抽出に関する基礎的研究」『考古学論攷』第29冊 奈良県立橿原考古学研究所
本村充保 2015「古代における近畿地方の下駄の様相」『古代文化』第66巻第4号 古代学協会
八尾市文化財調査研究会 1989『八尾市埋蔵文化財発掘調査概要』平成元年度
野州町教育委員会 1994『平成5年度野州町内遺跡発掘調査概要』
※挿図に掲載した下駄の図は、各報告書に掲載された実測図を一部改変して再トレースした。紙数の都合で、図の出典は割愛させていただいた。お詫びするとともに、ご了解いただきたい。

註

- 1) 順当に番号を振るなら、X形式とすべきところであるが、X形式は近世に盛行する連歯下駄に割り振ることにしている。これにより古代を通じてI形式～X形式は連歯下駄に割り振ることになり、XI形式・XII形式は露卯下駄、XIII形式・XIV形式は陰卯下駄という形で整理するためである。結果的に本稿では欠番がでるため、わかりにくいかもしれないが、ご了解いただきたい。なお、詳細は別稿に譲る。
- 2) 近世に盛行するXII形式の露卯下駄は、XI形式の平面形が方形になるものを指す。中世では6例しか事例がないため、本稿では検討対象として除外した。なお、図14に示した興福

寺旧境内の下駄は、12 世紀中葉～後葉のものと考えられるが、全国的にみて、16 世紀代以前に遡る事例は他になく、あくまでも例外的存在であり、XII 形式は 16 世紀以降に出現するものと考えておきたい。

- 3) 古代においては、都城や官衙などの遺跡から出土する傾向が強い、「都城系下駄様式」と呼んだが、中世でも「都城」と呼ぶことに違和感を抱く方もいると思う。ただ、古代に「都城系下駄様式」と規定したものを、別の名称で呼ぶことは、混乱を生じる可能性がある」と判断して、古代からの系譜を受け継ぐ一群であることを強調するため、あえて「都城系下駄様式」という名称を使うことにしたものである。違和感があることは承知しているが、ご了解いただきたい。

- 4) 「城下町系下駄様式」としたが、「城跡」を含めた総称であり、狭義の「城下町」に限定するという意味ではない。
- 5) 古代の下駄にみる祭祀性については、別稿を用意している。詳細は別稿によられたい。簡単に述べると、古代の下駄は、祭祀遺物とともに出土することが多く、特に「都城系下駄様式」とした一群は、人形などいわゆる律令祭祀具の一種とされる木製品と共伴することが多い。これらとともに出土する下駄は、表面に足形がつく事例が散見されることから、実際に使用されたことが明らかであり、祭祀に伴う形代ではない。祭祀を執行する際に履く装束であり、潔斎により清めた身体（足）の清浄性を担保する道具としての役割が期待されたと考えている。

表 1 近畿地方における中世の下駄一覧

遺跡番号	個体番号	遺 跡 名	都道府県	遺跡の種類	時期	形式	歯の形態	側面観	台板の断面形	樹種
1	1	上仰木遺跡	滋賀	集落	12C	III	d 1	p		
1	2	上仰木遺跡	滋賀	集落	13C	III	d 1	w 2		
1	3	上仰木遺跡	滋賀	集落	13C	III	d 1	p		
1	4	上仰木遺跡	滋賀	集落	13C	III	d 1	p		
1	5	上仰木遺跡	滋賀	集落	13C	IV	d 1	p		
2	1	坂本遺跡	滋賀	集落	16C	III	d 1	p		
2	2	坂本遺跡	滋賀	集落	16C	III	d 1	w 2		
2	3	坂本遺跡	滋賀	集落	16C	III	d 1	p		
2	4	坂本遺跡	滋賀	集落	16C	III	d 1	w 2		
2	5	坂本遺跡	滋賀	集落	16C	III	d 1	w 2		
2	6	坂本遺跡	滋賀	集落	16C	III	d 1	w 2		
2	7	坂本遺跡	滋賀	集落	16C	III	d 1	w 2		
2	8	坂本遺跡	滋賀	集落	16C	IV	d 1	p		
2	9	坂本遺跡	滋賀	集落	16C	IV	d 1	p		
2	10	坂本遺跡	滋賀	集落	16C	VIII	d 1	p		
2	11	坂本遺跡	滋賀	集落	16C	XI			d	
2	12	坂本遺跡	滋賀	集落	16C	XI			d	
3	1	上高砂遺跡	滋賀	寺院	12C	III	d 1	p		
3	2	上高砂遺跡	滋賀	寺院	12C	III	d 1	w 2		
4	1	南東浦遺跡	滋賀	集落	15C	III	d 1	w 2		
4	2	南東浦遺跡	滋賀	集落	15C	IV	d 1	w 2		
5	1	関津遺跡	滋賀	集落	12C	III	d 1	p		アスナロ属
5	2	関津遺跡	滋賀	集落	12C	III	d 1	p		ヒノキ
5	3	関津遺跡	滋賀	集落	12C	IV	d 1	p		アスナロ属
5	4	関津遺跡	滋賀	集落	12C	IV	d 1	p		
5	5	関津遺跡	滋賀	集落	16C	IV	d 1	w 2		二葉松類
6	1	佐和山城跡	滋賀	城跡	16C	III	d 1	p		アスナロ属
6	2	佐和山城跡	滋賀	城跡	16C	IV	d 1	p		アスナロ属
6	3	佐和山城跡	滋賀	城跡	16C	VIII				アスナロ属
6	4	佐和山城跡	滋賀	城跡	16C	VIII	d 1	p		アスナロ属
6	5	佐和山城跡	滋賀	城跡	16C	VIII	d 1	p		イヌマキ
6	6	佐和山城跡	滋賀	城跡	16C	XI			x	モクレン属
7	1	塩津港遺跡	滋賀	神社	12C	III	d 1	w 2		
7	2	塩津港遺跡	滋賀	神社	12C	III	d 1	w 2		ケヤキ
7	3	塩津港遺跡	滋賀	神社	12C	IV	d 1	p		ヒノキ
7	4	塩津港遺跡	滋賀	神社	12C	IV	d 1	w 2		ヒノキ
7	5	塩津港遺跡	滋賀	神社	12C	IV	d 1	w 2		
7	6	塩津港遺跡	滋賀	神社	12C	VIII	d 1	w 2		
8	1	神照寺坊遺跡	滋賀	寺院	16C	XI			s	
8	2	神照寺坊遺跡	滋賀	寺院	16C	XI			t	
9	1	里井B遺跡	滋賀	集落	15C	III	d 1	p		スギ
9	2	里井B遺跡	滋賀	集落	15C	VIII	d 1	p		キリ

遺跡番号	個体番号	遺 跡 名	都道府県	遺跡の種類	時期	形式	歯の形態	側面観	台板の断面形	樹種
10	1	観音寺城下町遺跡	滋賀	集落	16C	IV	d 1	p		サワグルミ
10	2	観音寺城下町遺跡	滋賀	集落	16C	XI			d	キハダ
10	3	観音寺城下町遺跡	滋賀	集落	16C	XI			d	エゴノキ属
11	1	宮前遺跡	滋賀	集落	13C	IV	d 1	p		ヒノキ
11	2	宮前遺跡	滋賀	集落	13C	IV	d 1	p		ヒノキ
12	1	草津宿場町遺跡	滋賀	集落	16C	III	d 1	p		
12	1	欲賀南遺跡	滋賀	集落	14C	IV	d 1	p		
12	1	横江遺跡	滋賀	集落	13C	III	d 1	w 2		
14	2	横江遺跡	滋賀	集落	14C	IV	d 1	p		
15	1	街道遺跡	滋賀	集落	12C	III	d 1	w 2		
15	2	街道遺跡	滋賀	集落	12C	III	d 1	w 2		
15	3	街道遺跡	滋賀	集落	12C	III	d 1	p		
15	4	街道遺跡	滋賀	集落	12C	IV	d 1	p		
15	5	街道遺跡	滋賀	集落	14C	III	d 1	p		
15	6	街道遺跡	滋賀	集落	14C	III	d 1	p		
15	7	街道遺跡	滋賀	集落	14C	IV	d 1	p		
16	1	久野部遺跡	滋賀	集落	14C	VIII	d 1	w 2		
17	1	三上遺跡	滋賀	集落	13C	IV	d 1	p		
18	1	針江南遺跡	滋賀	集落	13C	III	d 1	w 2		針葉樹
19	1	吉武城遺跡	滋賀	城跡	16C	IX	d 3			ヒノキ
20	1	正伝寺南遺跡	滋賀	集落	12C	III	d 1	w 2		
21	1	今安楽寺遺跡	滋賀	集落	12C	IV	d 1	p		
22	1	高速鉄道烏丸線内遺跡	京都	町屋	16C	III	d 1	p		
22	2	高速鉄道烏丸線内遺跡	京都	町屋	16C	III	d 3	p		
22	3	高速鉄道烏丸線内遺跡	京都	町屋	16C	IX	d 4			
22	4	高速鉄道烏丸線内遺跡	京都	町屋	16C	IX	d 1			
23	1	白河街区跡	京都	町屋	16C	VIII	d 1	w 2		
24	1	旧二条城跡	京都	町屋	16C	III	d 1	p		
25	1	三條西殿跡	京都	町屋	15C	XI			d	
25	2	三條西殿跡	京都	町屋	16C	III	d 1	p		
25	3	三條西殿跡	京都	町屋	16C	VIII	d 1	w 2		
25	4	三條西殿跡	京都	町屋	16C	IX	d 1	p		
26	1	本能寺跡	京都	寺院	16C	XI			d	ホオノキ
27	1	平安・左・3・2・10	京都	町屋	16C	III	d 1	p		モミ属
27	2	平安・左・3・2・10	京都	町屋	16C	IV	d 1	p		オニグルミ
28	1	平安・左・3・3・11	京都	町屋	16C	IV	d 2			
28	2	平安・左・3・3・11	京都	町屋	16C	IV	d 1	w 2		
28	3	平安・左・3・3・11	京都	町屋	16C	IV	d 1	w 2		
28	4	平安・左・3・3・11	京都	町屋	16C	VIII	d 1	p		

遺跡 番号	個体 番号	遺 跡 名	都道 府県	遺跡の 種類	時期	形式	歯の 形態	側面 観	台板の 断面形	樹種
29	1	平安・左 8・3	京都	町屋	13C	Ⅳ	d 1	p		
29	2	平安・左 8・3	京都	町屋	13C	Ⅳ	d 1	p		
30	1	大藪城跡	京都	城跡	16C	Ⅷ	d 1	p		モミ属
30	2	大藪城跡	京都	城跡	16C	Ⅷ	d 1	p		ツガ属
31	1	鳥羽離宮跡	京都	宮殿	12C	Ⅲ	d 1	w 2		
31	2	鳥羽離宮跡	京都	宮殿	12C	Ⅳ	d 1	w 2		
31	3	鳥羽離宮跡	京都	宮殿	12C	Ⅳ	d 1	w 2		
31	4	鳥羽離宮跡	京都	宮殿	12C	Ⅳ	d 1	p		
32	1	伏見城跡	京都	城跡	16C	Ⅷ	d 4			
33	1	桑原口遺跡	京都	集落	13C	Ⅳ	d 1	w 2		
33	2	桑原口遺跡	京都	集落	13C	Ⅳ	d 1	p		
33	3	桑原口遺跡	京都	集落	13C	Ⅳ	d 1	w 2		
34	1	難波野遺跡	京都	集落	13C	Ⅲ	d 1	p		
34	2	難波野遺跡	京都	集落	13C	Ⅲ	d 1	p		
34	3	難波野遺跡	京都	集落	13C	Ⅲ	d 1	p		
34	4	難波野遺跡	京都	集落	13C	Ⅲ	d 1	w 2		
34	5	難波野遺跡	京都	集落	13C	Ⅲ	d 1	w 2		
34	6	難波野遺跡	京都	集落	13C	Ⅲ	d 1	p		
34	7	難波野遺跡	京都	集落	13C	Ⅳ	d 1	p		
34	8	難波野遺跡	京都	集落	13C	Ⅳ	d 1	p		
34	9	難波野遺跡	京都	集落	13C	XI			s	
35	1	日置遺跡	京都	集落	16C	Ⅷ	d 1	p		
36	1	長岡・右 2・3・13 ほか	京都	町屋	13C	Ⅳ	d 1	p		
37	1	浅後谷南遺 跡	京都	集落	12C	Ⅲ	d 1	w 2		
37	2	浅後谷南遺 跡	京都	集落	12C	Ⅳ	d 1	p		
38	1	古殿遺跡	京都	集落	12C	Ⅳ	d 1	p		ヒノキ
39	1	沖田遺跡	京都	集落	13C	Ⅲ	d 1	p		
39	2	沖田遺跡	京都	集落	13C	Ⅳ	d 1	p		
40	1	正垣遺跡	京都	集落	12C	Ⅳ	d 1	p		
41	1	宮ノ口遺跡	京都	集落	13C	Ⅲ	d 1	p		ヒノキ
42	1	棕ノ木遺跡	京都	集落	13C	Ⅲ	d 1	w 2		
43	1	下畑遺跡	京都	集落	12C	Ⅲ	d 1	w 2		
44	1	四天王寺旧 境内	大阪	寺院	16C	Ⅲ	d 1			
44	2	四天王寺旧 境内	大阪	寺院	16C	Ⅲ	d 1	p		
44	3	四天王寺旧 境内	大阪	寺院	16C	Ⅷ	d 1	p		
44	4	四天王寺旧 境内	大阪	寺院	16C	Ⅷ	d 2			
44	5	四天王寺旧 境内	大阪	寺院	16C	Ⅷ	d 1			
45	1	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 2			
45	2	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 2			
45	3	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 4			
45	4	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 4			
45	5	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	6	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	7	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	8	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	9	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	10	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	11	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	12	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	w 2		
45	13	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 4			
45	14	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ				
45	15	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 2			
45	16	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	17	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	18	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 4			
45	19	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	20	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	21	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 2			
45	22	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	23	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 2			
45	24	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	25	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		

遺跡 番号	個体 番号	遺 跡 名	都道 府県	遺跡の 種類	時期	形式	歯の 形態	側面 観	台板の 断面形	樹種
45	26	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	27	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	28	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 2			
45	29	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	30	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	31	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 2			
45	32	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	33	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	w 2		
45	34	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	35	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	36	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	37	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	38	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	39	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	40	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	41	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	42	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	43	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	44	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 2			
45	45	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 2			
45	46	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	47	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	48	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	49	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	w 2		
45	50	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	51	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 4			
45	52	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ				
45	53	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	54	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ				
45	55	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 4			
45	56	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ				
45	57	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ				
45	58	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	59	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	60	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	61	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	62	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	63	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	64	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	65	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	66	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 2			
45	67	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	w 2		
45	68	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	69	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	w 2		
45	70	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	w 2		
45	71	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	w 2		
45	72	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	73	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 4			
45	74	大坂城跡	大阪	城下町	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	75	大坂城跡	大阪	城下町	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	76	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 2			
45	77	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	w 2		
45	78	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	79	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅲ	d 1	p		
45	80	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅳ	d 1	p		
45	81	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅳ	d 1	p		
45	82	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅳ	d 1	p		
45	83	森の宮遺跡	大阪	集落	16C	Ⅳ	d 1	p		
45	84	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅳ	d 1	p		
45	85	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅳ	d 1	p		
45	86	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅳ	d 1	p		
45	87	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅳ	d 1	p		
45	88	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅳ	d 1	w 2		
45	89	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅳ	d 1	w 2		
45	90	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅳ	d 1	p		
45	91	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅳ	d 1	p		
45	92	大坂城跡	大阪	城跡	16C	Ⅳ	d 1	w 2		

遺跡番号	個体番号	遺跡名	都道府県	遺跡の種類	時期	形式	歯の形態	側面観	台板の断面形	樹種
45	93	大坂城跡	大阪	城跡	16C	IV	d 1	w 2		
45	94	大坂城跡	大阪	城跡	16C	IV	d 1	p		
45	95	大坂城跡	大阪	城跡	16C	IV	d 3	p		
45	96	大坂城跡	大阪	城跡	16C	IV	d 1	p		
45	97	大坂城跡	大阪	城跡	16C	IV	d 1	p		
45	98	大坂城跡	大阪	城跡	16C	IV	d 1	p		
45	99	大坂城跡	大阪	城跡	16C	IV	d 1	p		
45	100	大坂城跡	大阪	城跡	16C	IV	d 1	w 2		
45	101	大坂城跡	大阪	城跡	16C	IV	d 1	p		
45	102	大坂城跡	大阪	城跡	16C	IV	d 1	p		
45	103	大坂城跡	大阪	城跡	16C	IV	d 1	p		
45	104	大坂城跡	大阪	城跡	16C	IV	d 1	p		
45	105	森の宮遺跡	大阪	集落	16C	VIII	d 2			
45	106	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 2			
45	107	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 1	p		
45	108	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	109	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	110	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 2			
45	111	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	112	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	113	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 3	p		
45	114	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 2			
45	115	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 2			
45	116	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 1	p		
45	117	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 2			
45	118	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	119	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 1	p		
45	120	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 1	p		
45	121	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 1	p		
45	122	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	123	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	124	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	125	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	126	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	127	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	128	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 3	p		
45	129	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	130	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	131	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 2			
45	132	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	133	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 3	p		
45	134	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 1	p		
45	135	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	136	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	137	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 1	p		
45	138	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 2			
45	139	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 2			
45	140	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 1	p		
45	141	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	142	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 1	p		
45	143	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	144	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	145	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 1	p		
45	146	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 2			
45	147	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	148	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	149	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	150	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 1	p		
45	151	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 2			
45	152	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 1	p		
45	153	大坂城跡	大阪	城下町	16C	VIII	d 3			
45	154	大坂城跡	大阪	城下町	16C	VIII	d 3			
45	155	大坂城跡	大阪	城下町	16C	VIII	d 1	p		
45	156	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4			
45	157	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 1	p		
45	158	大坂城跡	大阪	城跡	16C	VIII	d 4		d	
45	159	大坂城跡	大阪	城跡	16C	IX	d 1	p	d	

遺跡番号	個体番号	遺跡名	都道府県	遺跡の種類	時期	形式	歯の形態	側面観	台板の断面形	樹種
45	160	大坂城跡	大阪	城跡	16C	IX	d 1	p		
45	161	大坂城跡	大阪	城跡	16C	XI			d	
45	162	大坂城跡	大阪	城跡	16C	XI			d	
46	1	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	III	d 1	p		ヒノキ科
46	2	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	III	d 1	p		ヒノキ
46	3	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	III	d 1	p		ヒノキ科
46	4	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	III	d 1	p		
46	5	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	III	d 1	w 2		ヒノキ
46	6	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	III	d 1	p		ヒノキ科
46	7	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	III	d 1	p		ヒノキ
46	8	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	III	d 4			スギ
46	9	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	III	d 1	p		
46	10	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	III	d 1	p		
46	11	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	III	d 1	p		
46	12	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	III	d 1	p		ヒノキ科
46	13	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	III	d 4			スギ
46	14	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	III	d 1	p		
46	15	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	III	d 1	p		
46	16	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	III	d 1	p		
46	17	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	III	d 1	p		ヒノキ
46	18	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	III	d 2			ヒノキ科
46	19	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	III	d 2			ヒノキ
46	20	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	IV	d 1	p		クリ
46	21	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	IV	d 1	p		ヒノキ科
46	22	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	VIII	d 3	p		ヒノキ
46	23	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	VIII	d 1	p		ヒノキ
46	24	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	VIII	d 1	w 2		ヒノキ科
46	25	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	VIII	d 1	w 2		ヒノキ科
46	26	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	VIII	d 4			アスナロ
46	27	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	VIII	d 2			ヒノキ
46	28	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	VIII	d 2			ヒノキ科
46	29	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	VIII	d 4			ヒノキ科
46	30	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	VIII	d 3			マツ属 複雑 管束亜属
46	31	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	VIII	d 3	p		
46	32	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	VIII	d 2			ヒノキ科
46	33	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	VIII	d 1	p		ヒノキ科
46	34	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	VIII	d 2			ヒノキ科
46	35	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	VIII	d 2			ヒノキ科
46	36	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	VIII	d 4			スギ
46	37	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	IX	d 1	p		ヒノキ科
46	38	堺環濠都市遺跡	大阪	都市	16C	XI			s	モクレン 属
47	1	今木院寺	大阪	寺跡	14C	III	d 1	w 2		
48	1	吹田操車場遺跡	大阪	集落	13C	III	d 1	p		
49	1	蔵人遺跡	大阪	集落	13C	IV	d 1	w 2		
50	1	玉櫛遺跡	大阪	集落	13C	IV	d 1	p		ヒノキ科
50	2	玉櫛遺跡	大阪	集落	13C	IV	d 1	p		
50	3	玉櫛遺跡	大阪	集落	13C	IV	d 1	w 2		
50	4	玉櫛遺跡	大阪	集落	14C	III	d 1	p		

遺跡番号	個体番号	遺 跡 名	都道府県	遺跡の種類	時期	形式	歯の形態	側面観	台板の断面形	樹種
50	5	玉櫛遺跡	大阪	集落	14C	Ⅳ	d 1	w 2		
50	6	玉櫛遺跡	大阪	集落	14C	Ⅳ	d 1	w 2		
50	7	玉櫛遺跡	大阪	集落	14C	Ⅳ	d 1	w 2		
50	8	玉櫛遺跡	大阪	集落	14C	Ⅳ	d 1	w 2		
51	1	池島遺跡	大阪	耕作地	15C	Ⅲ	d 2	p		
52	1	池島・福万寺遺跡	大阪	耕作地	13C	Ⅲ	d 1	p		ヒノキ
52	2	池島・福万寺遺跡	大阪	耕作地	13C	Ⅲ	d 1	p		
52	3	池島・福万寺遺跡	大阪	耕作地	13C	Ⅳ	d 1	w 2		
52	4	池島・福万寺遺跡	大阪	耕作地	16C	Ⅺ			d	
53	1	中田遺跡	大阪	集落	12C	Ⅲ	d 1	w 2		
54	1	矢作遺跡	大阪	集落	13C	Ⅺ			s	
55	1	玉手山遺跡	大阪	集落	13C	Ⅳ	d 1	w 2		
56	1	駒ヶ谷遺跡	大阪	集落	12C	Ⅲ	d 1	p		
57	1	巢本遺跡	大阪	集落	13C	Ⅲ	d 1	p		
57	2	巢本遺跡	大阪	集落	13C	Ⅲ	d 1	p		
57	57	巢本遺跡	大阪	集落	13C	Ⅳ	d 1	p		
57	57	巢本遺跡	大阪	集落	14C	Ⅳ	d 1	p		
58	5	植附遺跡	大阪	集落	14C	Ⅲ	d 1	p		ヒノキ
59	1	水走遺跡	大阪	集落	13C	Ⅲ	d 1	w 2		
59	2	水走遺跡	大阪	集落	13C	Ⅲ	d 1	p		クリ
59	3	水走遺跡	大阪	集落	13C	Ⅲ	d 1	p		
59	4	水走遺跡	大阪	集落	13C	Ⅳ	d 1	p		スギ
59	5	水走遺跡	大阪	集落	13C	Ⅳ	d 1	p		
59	6	水走遺跡	大阪	集落	13C	Ⅳ	d 1	p		
60	1	西ノ辻遺跡	大阪	集落	13C	Ⅳ	d 1	w 2		ヒノキ
60	2	西ノ辻遺跡	大阪	集落	14C	Ⅲ	d 1			ネズコ
60	3	西ノ辻遺跡	大阪	集落	14C	Ⅲ	d 1	p		
60	4	西ノ辻遺跡	大阪	集落	14C	Ⅳ	d 1	p		ネズコ
61	1	鬼虎川遺跡	大阪	集落	13C	Ⅲ	d 1	p		
61	2	鬼虎川遺跡	大阪	集落	13C	Ⅳ	d 1	p		ヒノキ
61	3	鬼虎川遺跡	大阪	集落	13C	Ⅳ	d 1	p		ヒノキ
61	4	鬼虎川遺跡	大阪	集落	16C	Ⅲ	d 1	p		ヒノキ
62	1	若江遺跡	大阪	集落	16C	Ⅲ	d 1			
62	2	若江遺跡	大阪	集落	16C	Ⅲ	d 1	p		スギ
62	3	若江遺跡	大阪	集落	16C	Ⅲ	d 2			マツ
62	4	若江遺跡	大阪	集落	16C	Ⅲ	d 1	p		クリ
63	1	野間遺跡	大阪	集落	14C	Ⅳ	d 1	p		
64	1	上椿遺跡	大阪	集落	12C	Ⅲ	d 1	p		
65	1	兵庫津遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅲ	d 1	p		マツ属複維管束亜属
66	1	松野遺跡	兵庫	集落	13C	Ⅲ	d 1	w 2		針葉樹
67	1	吉田南遺跡	兵庫	館跡	13C	Ⅲ	d 1	w 2		
68	1	袴狭遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅸ	d 1	p		ヒノキ
69	1	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	15C	Ⅲ	d 1	p		
69	2	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	15C	Ⅷ	d 1	p		ヒノキ
69	3	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	15C	Ⅸ	d 1	w 2		
69	4	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	15C	Ⅺ			d	モクレン属
69	5	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅳ	d 1	p		
69	6	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅷ	d 3			スギ
69	7	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅲ	d 1	w 2		サワグルミ
69	8	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅲ	d 1	p		ヤナギ属
69	9	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅲ	d 1	p		キリ
69	10	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅲ	d 1	p		ホオノキ
69	11	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅲ	d 1	p		モクレン属
69	12	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅲ	d 1	w 2		
69	13	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅲ	d 1	p		
69	14	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅲ	d 1	w 2		
69	15	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅲ	d 1			ヤナギ属
69	16	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅳ	d 1	p		

遺跡番号	個体番号	遺 跡 名	都道府県	遺跡の種類	時期	形式	歯の形態	側面観	台板の断面形	樹種
69	17	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅷ	d 1	p		スギ
69	18	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅷ	d 1	p		マツ属複維管束亜属
69	19	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅷ	d 1	p		
69	20	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅷ	d 1	p		ヒノキ
69	21	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅺ			d	ヒノキ
69	22	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅺ			d	モクレン属
69	23	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅺ			d	
69	24	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅺ			d	
69	25	宮内堀脇遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅺ			d	
70	1	山野里宿遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅺ			t	スギ
71	1	川除・藤ノ木遺跡	兵庫	集落	12C	Ⅳ	d 1	p		ヒノキ
72	1	初田館跡	兵庫	館跡	16C	Ⅲ	d 1	w 2		カキノキ
73	1	安坂・門田遺跡	兵庫	集落	16C	Ⅷ	d 1	w 2		
74	1	元興寺旧境内	奈良	寺院	12C	Ⅳ	d 1	p		
75	1	興福寺旧境内	奈良	寺院	12C	Ⅲ	d 1			
75	2	興福寺旧境内	奈良	寺院	12C	Ⅲ	d 1	p		
75	3	興福寺旧境内	奈良	寺院	12C	Ⅲ	d 1			
75	4	興福寺旧境内	奈良	寺院	12C	Ⅲ	d 1	p		
75	5	興福寺旧境内	奈良	寺院	12C	Ⅲ	d 1	p		
76	1	東大寺旧境内	奈良	寺院	13C	Ⅷ	d 1	w 2		クリ
77	1	平城・左3・2	奈良	町屋	16C	Ⅷ	d 1	p		針葉樹
78	1	奈良町遺跡	奈良	町屋	16C	Ⅲ	d 2			
78	2	奈良町遺跡	奈良	町屋	16C	Ⅲ	d 2			
79	1	平・左5・6・16	奈良	町屋	16C	Ⅷ	d 1	p		モミ属
79	2	平・左5・6・16	奈良	町屋	16C	Ⅺ			t	カバノキ属
80	1	大中遺跡	奈良	集落	14C	Ⅳ	d 1	p		
81	1	古屋敷遺跡	奈良	集落	15C	Ⅲ	d 1	p		
82	1	中町西遺跡	奈良	館跡	12C	Ⅲ	d 1	p		クリ
82	2	中町西遺跡	奈良	館跡	12C	Ⅳ	d 1	p		ヒノキ
83	1	布留遺跡	奈良	集落	15C	Ⅲ	d 1	w 2		
83	2	布留遺跡	奈良	集落	15C	Ⅺ			d	
84	1	平等坊環濠遺跡	奈良	集落	16C	Ⅲ	d 1	p		
85	1	曲川遺跡	奈良	集落	12C	Ⅷ	d 1	p		
86	1	四条遺跡	奈良	集落	12C	Ⅳ	d 1	p		
87	1	小泉堂遺跡	奈良	集落	14C	Ⅲ	d 1	w 2		
88	1	下永東方遺跡	奈良	集落	12C	Ⅲ	d 1	w 2		コウヤマキ
88	2	下永東方遺跡	奈良	集落	12C	Ⅲ	d 1	w 2		クリ
89	1	鷺ノ森遺跡	和歌山	寺院	16C	Ⅲ	d 1	p		スギ
89	2	鷺ノ森遺跡	和歌山	寺院	16C	Ⅲ	d 2			
89	3	鷺ノ森遺跡	和歌山	寺院	16C	Ⅳ	d 1	p		
89	4	鷺ノ森遺跡	和歌山	寺院	16C	Ⅷ	d 1	p		スギ
89	5	鷺ノ森遺跡	和歌山	寺院	16C	Ⅷ	d 4			
89	6	鷺ノ森遺跡	和歌山	寺院	16C	Ⅷ	d 4			スギ
89	7	鷺ノ森遺跡	和歌山	寺院	16C	Ⅷ	d 4			
90	1	根来寺坊院跡	和歌山	寺院	16C	Ⅲ	d 1	w 2		
90	2	根来寺坊院跡	和歌山	寺院	16C	Ⅲ	d 1	p		
90	3	根来寺坊院跡	和歌山	寺院	16C	Ⅲ	d 1	w 2		
91	1	金剛峯寺遺跡	和歌山	寺院	12C	Ⅲ	x			
91	2	金剛峯寺遺跡	和歌山	寺院	12C	Ⅲ	d 1	x		
91	3	金剛峯寺遺跡	和歌山	寺院	12C	Ⅳ	d 1	w 2		
92	1	湯川氏館跡	和歌山	館跡	16C	Ⅷ	d 1	p		トネリコ属
93	1	藤並地区遺跡	和歌山	集落	13C	Ⅲ	d 1	p		ヒノキ